# なる者、アブ　バクル（2/3）：我々は二人、三人目は神である

：

明:二人の盟友は危 に り、神にすべてを委ねます。

目: 事 言者ムハンマド彼の教友たちの物

より: ア イシャ ステイシ

日11 Feb 2013

集日 11 Feb 2013

言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）とアブ　バクルの年 は、3 ほどしか れていませんでした。双方とも氏族は なりましたが、同じクライシュ族の出身でした。 言者ムハンマドの初期の人生の大半は しいものだったのとは 照的に、アブ　バクルの家族は比 的裕福でした。しかし双方とも落ち着き、威 のある 度をもって生活し、双方ともその人生において偶像崇 から　でした。 言者ムハンマドがイスラ ムの教えを く使命を授けられたとき、彼が最初に助けを求めた男性が、アブ　バクルでした。一瞬のためらいも せずに彼はイスラ ムを受け入れ、その の人生すべてをイスラ ムに捧げたのです。

アブ　バクルは彼の 友をとても慕っていたため、イスラ ムという真理を受け入れる　がいつでも出来ていました。「神は唯一である」という教えを彼が いたとき、彼はすでにそれが真 であると知っていたため、受け入れる　が出来ていました。彼の娘ア イシャは、アブ　バクルがその人生を通し、一度も偶像に ずいたことがなかったと 告しています。アブ　バクル自身も、彼が幼い 、父によって偶像が祀られている 所に れて行かれ、その に置き去りにされたことを えています。少年は、周りを取り む かぬ物体に し、それらが何かの役に立つのかを ねました。偶像がその　に えることが出来なかったため、アブ　バクルは　きの出来ないものの崇 などはしないことを心に誓ったのです。彼は、偶像や神像が崇 には しないことを本能的に理解していたのです。

唯一なる真 の神に するアブ　バクルの 情と、盟友ムハンマドへの支持は、イスラ ム初期における迫害や虐待を意味しました。マッカの住民の大半はムハンマドの教えを毛嫌いしていました。彼らは偶像崇 の　者であり、偶像を参 するマッカ内外からの巡礼者たちは、彼らに大きな 入をもたらしていたのです。もし、ムハンマドが唯一なる神への崇 に して人々を 一し、彼らの腐 が根 されたなら、彼らの生活は根底から覆されてしまったのです。

## 移住

ムスリムに して行われた 酷な拷 、そして蛮行から、 言者ムハンマドは追 者たちを避 させました。二つの移住のうちの一つは、 にマディ ナと呼ばれるようになるヤスリブの町へのものでした。それはたびたび逃避だったと言われますが、　には慎重に 画された移住でした。ヤスリブの二部族が 言者ムハンマドとの 定に合意し、彼への忠 と保 を 束しましたが、この段 ではまだ、神によってマッカを去る 可が下されてはいませんでした。しかしながら、マッカの住民に 付かれないよう、少数の追 者たちをヤスリブに派遣してはいました。

ある日の正午の炎天下、 言者ムハンマドは友人であるアブ　バクルの家を れました。この　は も外出をせずに休息するものであるため、マッカの街路は 人であることから、アブ　バクルはこの　が重大なものであると察しました。 言者ムハンマドはアブ　バクルに、「家を空ける」よう求めました。それはつまり、重要な案件を内密に し合うことを意味しました。アブ　バクルは「ここはあなたの家庭です。」と言って じました。 言者ムハンマドは中へ入り、神によってマッカを去る 可が与えられたことを告げました。アイシャは、この旅における 言者ムハンマドの同行者となることを知ったアブ　バクルが したことを えています。

その旅が危 性に ちたものであることは明白でしたが、アブ　バクルが したのは恐怖からではなく、喜びに感 まってのものでした。それは10日 以上もの日数を、最も　なる盟友と共に ごすことの出来る 会でもあったのです。アブ　バクルも 言者ムハンマドによって旅立ちの 可を下りるのを待っていたため、既にラクダの　は出来ていることを告げまし

た。その夜、二人の盟友はひっそりと砂漠の の中、旅立ったのです。

## 探索

 言者ムハンマドが去ったことに 付いたマッカの住民たちは、彼の 害 画が 行出来ずに激怒しました。直ちに探索 が まれ、周 地域の  が 始されたのです。彼らは 言者ムハンマドがヤスリブに向かっている疑いのあることに 付いてはいましたが、全方角に探索 を派遣しました。アブ  バクルと 言者ムハンマドは、ヤスリブとは正反 の方角である、マッカの南に位置する洞窟の中で、3日 に渡り身を しました。

ある局面では、探索 が彼らの洞窟の入り口を つけ、 めて近いところまでやって来たため、アブ  バクルは一人の靴を ることが出来たほどでした。彼は恐怖と  でおののいていましたが、彼は勇敢な人物であったため、それは自分自身のためではなく、敬 する盟友のことを 念してのものでした。アブ  バクルはささやきました。「神の使徒よ、もし彼らが自分たちの足元を たのなら、彼らは私たちを  することでしょう！」 言者ムハンマドは えました。「アブ  バクルよ、神が三人目としてついている二人に してはどう思うのだ？」このときの状 について、神はクルア ンで以下の を 示しているのです。

***“????????????????????????????????????????????????????????1????????2??????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????????”??????9?40?***

怒り狂うマッカの住民たちは、洞窟の入り口を つけはしたものの、そこに入ることはありませんでした。入り口にはクモが を っており、中は 期 、 も立ち入っていない 相を示していたからです。アブ  バクルは彼の敬 する友の言 から、神の御力はたびたび、全く予期しないときにはっきりと れることを理解したのです。小さく、脆いクモによる蔽の は、いわば一つの  よりも 力なものだったからです。成人男性として最も早くイスラ ムを受け入れたアブ  バクルは、「二人のうちの一人」となりました。ムスリム国家を 立するという一つの使命、そしてお互いへの敬 によって 束した二人の盟友は、唯一なる真 の神への 情によってその をより くさせたのです。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1917

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。